

1,000 万件の視聴ログから見えてきた

企業研修トレンド

【2026 年度版】

データで読み解く、人材育成の変化点

株式会社Bizアップ総研

2026 年 8 月 26 日 発行

はじめに

ビズアップ総研では、2025 年～2026 年上半期に新たに 582 テーマ・2774 本の研修コンテンツをリリースし、延べ 12 万人を超えるユーザーの皆様にご利用いただきました。

本冊子では、蓄積されたおよそ 1,000 万件にのぼる視聴ログをもとに、2026 年上半期の人気テーマや前年からの変化、そして今後にかけての“兆し”をデータで読み解いています。

「どんな研修が今、必要とされているのか？」

「どんな変化が、現場で起きているのか？」

実際の視聴ログをベースにした、“現場の声が透けて見える”研修トレンドレポートです。人材育成の方針検討や、社内研修設計の参考資料として、ぜひご活用ください。

【目次】

1、2026 年の研修テーマランキング ～全体の傾向～

2、2026 年上半期の視聴ログから見えてくる 5 つの構造変化

【Pick Up】生成 AI は一過性ではない、本物の学習意欲

【Pick Up】「DX」という言葉が、生成 AI に飲み込まれつつある

【Pick Up】ハラスメント研修は「年に一度、必ず受ける研修」として定着

【Pick Up】「両立支援」研修の急落

【Pick Up】Office 研修は縮小。ただし Excel だけが残る

3、カテゴリ別ランキング

生成 AI ・ DX ／ メンタルヘルス ・ 健康 ／ コンプライアンス ・ 法務

マネジメント ・ 育成 ／ コミュニケーション ・ 接遇

4、終わりに

※本レポートは、弊社の e-ラーニングサービス「e-jinzai」における各研修コンテンツのアクセスログを分析し、そのデータをもとにテーマ別・カテゴリ別のアクセスランキング（500 位以内）を作成したものです。

※ランキングは、各動画研修の「視聴者数」をベースに算出しており、重複アクセスは排除した数値です。ただし、視聴者数は非公表とさせていただきます。

※2026 年 1～6 月の受講実績を年間換算し、2025 年通年実績と比較した推計値です。

第 1 章 2026 年の研修テーマランキング ～全体の傾向～

2026 年上半期の視聴ログからは、企業研修の関心が 4 つの領域に集約されつつある傾向が読み取れます。

視聴数の上位は、ハラスメント関連が占めました。1 位「パワーハラスメント」、2 位「セクシャルハラスメント」に続き、3 位に新規ランクインの「ストレス管理」、4 位「ハラスメント総論」、5 位「健康管理～予防と対策～」(前年比 72.9%増)が並びます。ハラスメント対策と従業員の心身の状態を整えることが、企業にとって優先度の高いテーマとして定着しつつあります。

カテゴリ単位でも首位はハラスメント(23.8%)でした。次いで生成 AI・DX(19.5%)、階層別基礎研修(14.7%)と続き、この 3 領域だけで全体の 54.3%を占めます。さらにメンタルヘルス・健康(13.0%)を加えた 4 領域では、全体の 71.0%に達します。

伸長率で見ると、様相は異なります。「タイムマネジメントワーク講座」が 707.6%増、「ChatGPT マスター講座 3 講 プロンプトを理解して出力の精度を上げる」が 923.6%増、「生成 AI(基礎編)」が 400.2%増と、生成 AI 関連および実務スキル系の伸びが突出しています。また、健康領域では「女性特有の健康課題に関する知識を得るための研修」が 203.8%増と、いずれも従来の中心テーマから外縁のテーマへ関心が広がる動きが見られます。

1-1 総合アクセスランキング TOP30

	カテゴリ	研修タイトル	伸び率 (前年比)
1	ハラスメント	パワーハラスメント (パワハラ)	48.7%
2	ハラスメント	セクシャルハラスメント (セクハラ)	53.7%
3	メンタルヘルス・健康	ストレス管理	新規
4	ハラスメント	ハラスメント総論	17.3%
5	メンタルヘルス・健康	健康管理～予防と対策～	72.9%
6	コンプライアンス・法務	コンプライアンス総論① そもそも「コンプライアンス」とは	9.6%
7	階層別基礎研修	初級管理者	▲ 41.1%
8	階層別基礎研修	中級管理者	83.1%
9	生成 AI・DX	情報セキュリティ研修	42.5%
10	ハラスメント	職場のハラスメントの基本知識	7.7%
11	コミュニケーション・接遇	ビジネスマナー研修	44.9%
12	コンプライアンス・法務	コンプライアンス総論③ 内部通報・内部告発	0.5%
13	ハラスメント	その他のハラスメント	147.0%
14	生成 AI・DX	生成 AI (入門編)	39.8%
15	生成 AI・DX	生成 AI (基礎編)	400.2%

	カテゴリ	研修タイトル	伸び率 (前年比)
16	マネジメント・育成	タイムマネジメントワーク講座	707.6%
17	コンプライアンス・法務	コンプライアンス総論② 不正が起きやすい背景とは	▲ 27.1%
18	階層別基礎研修	新入社員	5.4%
19	ハラスメント	働きやすい職場づくりのためのマネジメント	2.0%
20	生成 AI・DX	【ChatGPTマスター講座】 1講 ChatGPTとは	6.2%
21	階層別基礎研修	中堅社員	▲ 13.3%
22	メンタルヘルス・健康	働く人のストレスとセルフケア	▲ 73.4%
23	生成 AI・DX	【ChatGPTマスター講座】 2講 基本的な使い方をマスターする	127.0%
24	ハラスメント	カスタマーハラスメント	新規
25	階層別基礎研修	内定者	10.7%
26	Office スキル	Microsoft Excel(入門編)	▲ 5.3%
27	生成 AI・DX	【ChatGPTマスター講座】 3講 プロンプトを理解して出力の精度を上げる	923.6%
28	メンタルヘルス・健康	女性特有の健康課題に関する 知識を得るための研修	203.8%
29	生成 AI・DX	従業員に必要な情報セキュリティの基礎	191.5%
30	コンプライアンス・法務	コンプライアンス各論② 情報管理	▲ 29.8%

1-2 カテゴリ別シェア

	カテゴリ	シェア
1	ハラスメント	23.8%
2	生成 AI・DX	19.5%
3	階層別基礎研修	14.7%
4	メンタルヘルス・健康	13.0%
5	コンプライアンス・法務	11.6%
6	マネジメント・育成	6.1%
7	Office スキル	5.2%
8	コミュニケーション・接遇	4.9%
9	資格試験対策	0.6%
10	会計・税務・金融	0.5%

全体の
約7割

これらの結果から見えてくるのは、企業研修の需要が「ハラスメント」「AI」「階層別育成」「メンタルヘルス・健康」という4本柱に集約されているということ。研修体系を設計するうえで、この4領域は外せない“基礎枠”と考えてよいでしょう。

第2章 2026年上半期の視聴ログから見えてきた5つの構造変化

2026年上半期のログを前年と比較すると、単なる人気の入れ替わりではない、構造的な変化が5つ浮かび上がってきました。

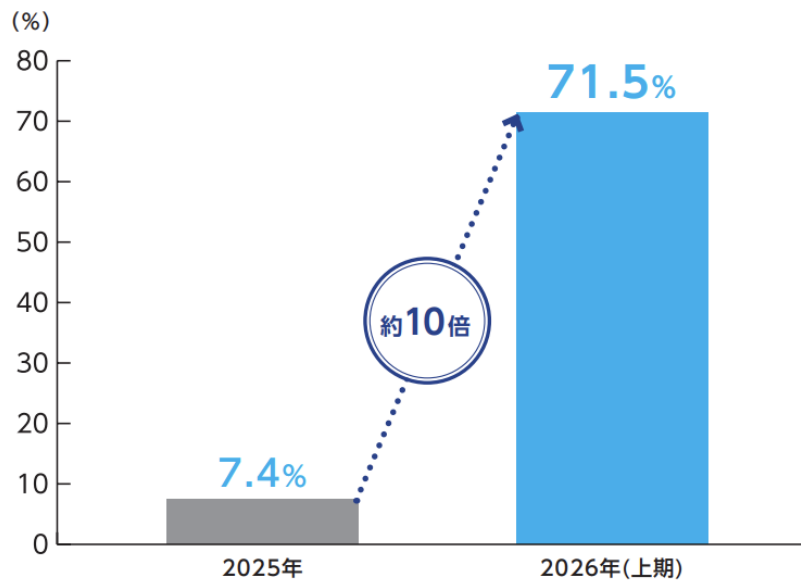
【Pick Up ①】生成AIは一過性ではない、本物の学習意欲

生成AI関連研修へのアクセスは前年から倍増しています。ChatGPTの登場から3年余りを経て、生成AIは一部の先進企業が試すものから、業種・職種を問わず日常業務に組み込まれる技術へと変化しました。導入するかどうかの検討段階が終わり、「使いこなせる人材をどう育てるか」が実務上の課題になったことで研修需要が顕在化したものとみられます。



ChatGPT マスター講座では、入門にあたる1講の受講者数が前年比6.2%増とほぼ横ばいである一方、2講は127%増、3講「プロンプト理解」は924%増と爆発的に伸びています。1講を100%とした到達率は、2講が36.5%から78.1%、3講が7.4%から71.5%へ急上昇し、新設の4講も初年度で30.0%に到達。生成AIの活用が「お試し受講」から組織全体の実務定着フェーズへと完全に移行している状況を示しています。

「ChatGPTマスター講座」の到達率



【Pick Up ②】「DX」という言葉が、生成 AI に飲み込まれつつある

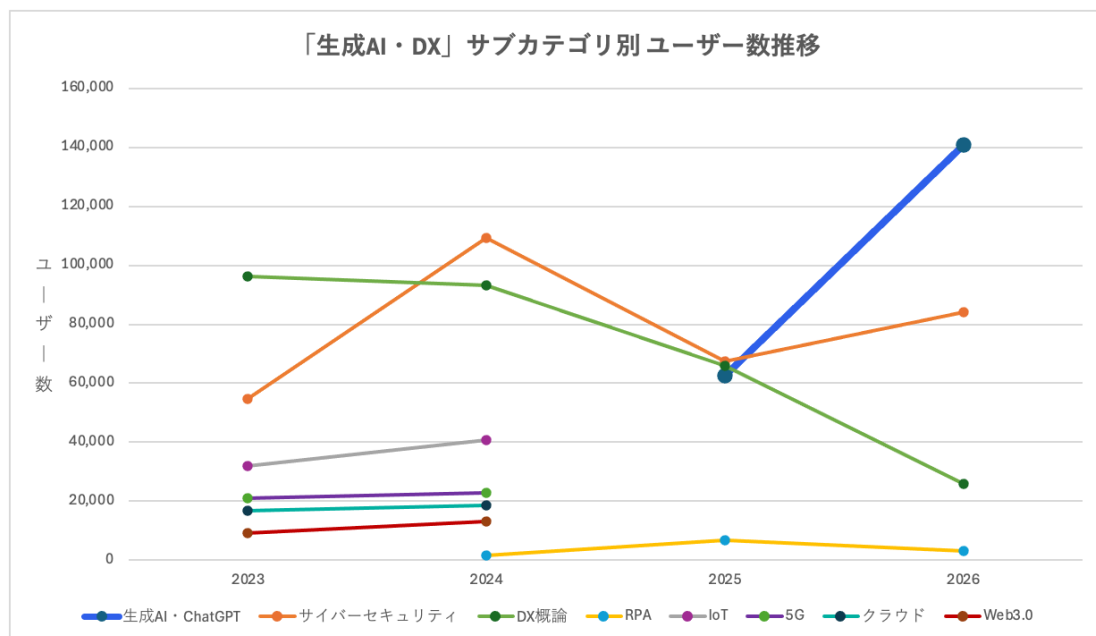
生成 AI 研修の視聴が爆発的に増加する一方で、「DX」という枠組みは急速に縮小しています。

「DX 概論」研修は前年から約 6 割（▲60.7%）も落ち込み、IoT や Web3.0 といった周辺テーマに至っては、上位 500 位のランキングから完全に姿を消しました。DX 系研修はもともと、「我が社も DX を進めなければ」という漠然とした危機感に支えられて伸びてきたジャンルです。しかし 2026 年、その危機感は「AI を導入しなければ」という、より具体的で切迫した課題へと置き換わりました。実際、生成 AI ・ ChatGPT 関連は 2025 年に登場するや 10 万アクセス規模へと急伸び（前年比+125%）、いまやこのカテゴリで唯一の成長エンジンとなっています。学びの関心は、「DX」という抽象的な概念から、「生成 AI」という具体的な手段へと移ったと言えるでしょう



サブカテゴリ	前年比伸び率
生成AI・ChatGPT	125.2%
サイバーセキュリティ	24.3%
DX概論	▲60.7%
RPA	▲52.3%
IoT	-
5G	-
クラウド	-
Web3.0	-

※「IoT」「5G」「クラウド」「Web3.0」は500圏外のため前年比伸び率未集計



【Pick Up③】ハラスメント研修は「年に一度、必ず受ける研修」として定着

ハラスメント研修は、今年もすべてのカテゴリーの中で最大シェアを占めました。通常、一度受ければ済む研修であれば、受講者が一巡した時点で視聴数は減少していきます。しかしハラスメント研修は、常にランキングの上位を占め続けています。これは、最新の内容を毎年繰り返し受講する研修として定着したことを示しています。

全体の 27%	ハラスメントの種類	伸び率（前年比）
	ハラスメント総論	13.2%
全体の 6.5%	パワハラ	48.7%
	セクハラ	53.7%
	管理職向けハラスメント対応	▲ 27.7%
	その他ハラスメント	81.2%
	カスハラ	54.5%
	企業の講ずべき措置	4.4%
	合計	22.1%

ハラスメント研修を種類別に見ると、「総論」が全体の約 3 割（27%）を占め、依然として中心です。ただし総論の伸びは前年比+13%にとどまる一方、個別の類型がそれを上回るペースで伸びています。パワハラ+49%、セクハラ+54%、その他のハラスメント+81%と軒並み高く、ニーズが「ハラスメントとは何か」という総論から、「個別のハラスメント」へと細分化していることがうかがえます。

カスハラ研修は前年比+54%としっかり伸びているものの、実人数のシェアは6.5%、7種類中6位と規模はまだ小さめです。2026 年 10 月にカスハラ対策の義務化が控えるなか、今後さらに需要が高まる余地があると言えそうです。

【Pick Up④】両立支援研修の急落

両立支援研修（育児・介護）は、2025 年に急増したのち 2026 年に大きく反落しました。従業員向けの育児研修は前年比▲86%、介護研修は▲94%、管理職向けの介護研修に至ってはランキング圏外（実質▲100%）まで落ち込んでいます。いずれも 2024 年以前には上位に姿がなく、2025 年に突如利用が集中したテーマです。

研修タイトル	前年比伸び率
仕事と育児を両立しながら働くための研修（従業員向け）	▲85.5%
仕事と介護の両立に向けた研修（従業員向け）	▲94.3%
介護をしている社員の両立支援に向けた研修（管理職向け）	500位圏外

背景にあるのは、改正育児・介護休業法の施行です。同法は 2024 年 5 月に成立し、介護関係は 2025 年 4 月 1 日、育児関係は 2025 年 4 月 1 日と同年 10 月 1 日の 2 段階で施行されました。制度変更を社員に周知する目的で、2025 年に両立支援研修の受講が集中したと考えられます。

そして 2026 年、企業の対応は一巡し、研修需要も一服しました。制度対応を目的とした研修は、対応が終わればニーズも収束する——両立支援研修の急落は、その典型例といえるでしょう。

【Pick Up⑤】 Office 研修は縮小。ただし Excel だけが残る

カテゴリごとにシェアを大きく落としたもののひとつが「Office スキル」です。カテゴリ全体のユーザー数は前年比▲21%、既存テーマは 1 つの例外もなくマイナス（またはランキング圏外）という縮小を見せました。

研修テーマ		伸び率（前年比）
Excel	入門編	▲ 5.3%
	一般編	▲ 1.5%
	応用編	▲ 24.7%
	ピボットテーブル編	▲ 5.3%
Excel VBA	基礎編	▲ 13.5%
Word	入門編	▲ 28.6%
	一般編	▲ 24.5%
	応用編	▲ 40.5%
PowerPoint	入門編	▲ 56.7%
	一般編	500 位圏外
	応用編	500 位圏外
Microsoft Teams と Copilot で変革するワークスタイル		新規
合計		▲ 21.0%

ただし Excel 研修に限れば、落ち込みは限定的です。入門編▲5%、一般編▲2%と一桁の減少にとどまり、ピボットテーブル（▲5%）や VBA（▲14%）も小幅、応用編がやや大きい▲25%程度でした。データの整理・集計・分析は、AI が代替するどころか、AI を使いこなすために不可欠な業務です。だからこそ研修需要が残ったと考えられます。

対照的に、Word と PowerPoint は大幅な減少です。Word は▲25～▲41%、PowerPoint に至っては入門編が▲57%、一般編・応用編は 500 位圏外へと姿を消しました。文書やスライドの作成は、生成 AI が最も早く代替しはじめた領域です。すでに実務に浸透し、操作方法を人が学ぶ必要性が薄れてきていると考えられます。

さらに、新設の「Microsoft Teams と Copilot で変革するワークスタイル」がユーザー数 5,754 人（年換算）を記録し、PowerPoint 入門編（同 2,820 人）を上回りました。Office 研修の需要は消えたのではなく、AI との協働を前提としたテーマへ移りつつあります。

第3章 カテゴリ別ランキング

各カテゴリの内訳を見ると、全体のトレンドだけでは見えない動きが浮かび上がってきます。自社の重点領域に該当するカテゴリから、ご参照ください。

3-1 生成 AI・DX

生成 AI とサイバーセキュリティが同時に伸び、DX 概論が沈む——このカテゴリには、2026 年の企業研修を象徴する構図がそのまま表れています。

生成 AI・DX 研修		伸び率 (前年比)	生成 AI・DX 研修		伸び率 (前年比)
1	情報セキュリティ研修	42.5%	12	ゼロから始めるDXの学び(実践編1)	▲ 47.4%
2	【生成 AI マスター講座】生成 AI (入門編)	39.8%	13	ゼロから始めるDXの学び(理解編)	▲ 51.4%
3	【生成 AI マスター講座】生成 AI (基礎編)	400.2%	14	【ChatGPTマスター講座】4講 ビジネスの現場で活用する(事務編)	新規
4	【ChatGPT マスター講座】1 講 ChatGPT とは	6.2%	15	ゼロから始めるDXの学び(実践編2)	▲ 50.3%
5	【ChatGPT マスター講座】2 講 基本的な使い方をマスターする	127.0%	16	DX時代に必要なサイバーセキュリティ対策(応用編)	▲ 13.3%
6	【ChatGPT マスター講座】3 講 プロンプトを理解して出力の精度を上げる	923.6%	17	RPA研修(基礎編)	▲ 52.3%
7	従業員に必要な情報セキュリティの基礎	191.5%	18	企業の情報セキュリティ～個人情報・企業秘密～	新規
8	社会人の情報セキュリティの基礎	20.5%	19	DX概論	▲ 72.7%
9	生成 AI 活用実践	新規	20	【ChatGPTマスター講座】オープニング	7.8%
10	DX 時代に必要なサイバーセキュリティ対策(基礎編)	0.7%	21	【生成 AI マスター講座】オープニング	新規
11	【生成 AI マスター講座】生成 AI (基礎編) テキスト編	71.9%	22	AI(人工知能)研修(入門編)	9.3%

意外にも、個別テーマの首位は生成 AI ではなく「情報セキュリティ研修」でした。生成 AI の受講が入門・基礎・ChatGPT 各講に分散しているのに対し、セキュリティは 1 本に集中しているためです。その「情報セキュリティ研修」は前年比+43%、「従業員に必要な情報セキュリティの基礎」は+191%と大きく伸び、カテゴリの TOP10 のうち 4 本をセキュリティ系が占めました。

生成 AI の業務利用が広がるほど、機密情報の入力や生成物の取り扱いといった新たなリスクが生まれます。「AI を使わせる」と「情報を守る」がセットで進んでいるのが、2026 年の実態でしょう。生成 AI 研修を導入する際は、情報セキュリティ研修とあわせて設計することが現実的です。

3-2 メンタルヘルス・健康

「メンタルヘルス・健康」カテゴリは、ユーザー数を前年比▲23%落としました。そんな中で一際目を引くのが、今期新設の「ストレス管理」研修です。全研修の中でユーザー数 1 位を獲得しており、企業が従業員のストレスマネジメントに大きな関心を寄せていることがうかがえます。

順位	研修テーマ	前年比伸び率
1	ストレス管理	新規
2	健康管理～予防と対策～	72.9%
3	働く人のストレスとセルフケア	▲73.4%
4	女性特有の健康課題に関する知識を得るための研修	203.8%
5	健康管理～心と体～	▲18.4%
6	管理職向けラインケア研修	▲40.3%
7	仕事と育児を両立しながら働くための研修（従業員向け）	▲85.5%
8	アンガーマネジメント（概要編）	新規
9	アンガーマネジメント（導入編）	9.5%
10	安全運転研修～社会人に求められる安全運転～	0.7%
11	仕事と介護の両立に向けた研修（従業員向け）	▲94.3%
12	女性の健康リテラシー向上	500位圏外
13	介護をしている社員の両立支援に向けた研修（管理職向け）	500位圏外

新設コンテンツが躍進する一方、両立支援（仕事と育児：▲86%）やラインケア（管理職向けラインケア研修：▲40%）は急減しました。制度対応型・管理職向けの研修が一巡し、役割を終えつつあることを示しています。反対に、健康管理～予防と対策～（+73%）や女性特有の健康課題（+204%**）は大きく伸びました。関心は「制度を学ぶ」ことから「健康そのものを管理する」ことへと移っているようです。

また、アンガーマネジメント関連が複数ランクインしており（概要編は新設）、「感情の扱い方」がビジネスパーソンの重要スキルとして認識されつつあることがわかります。

3-3 コンプライアンス・法務

コンプライアンス研修は、例年どおり総論を中心に安定した受講を集めていますが、カテゴリ全体ではユーザー数を▲25%落としました。ハラスメント研修と同じく毎年上位を占める定番ジャンルですが、ハラスメント（+22%）が伸びたのとは対照的に、コンプライアンスは縮小しています。

	コンプライアンス研修	伸び率(前年比)
1	コンプライアンス総論① そもそも「コンプライアンス」とは	9.6%
2	コンプライアンス総論③ 内部通報・内部告発	0.5%
3	コンプライアンス総論② 不正が起きやすい背景とは	▲ 27.1%
4	コンプライアンス各論② 情報管理	▲ 29.8%
5	自分を守るためのコンプライアンス	▲ 47.3%
6	コンプライアンス各論① 契約管理	▲ 12.1%
7	【IT パスポート試験対策】〔企業と法務〕企業活動	新規
8	コンプライアンス各論③ 独占禁止法・下請法・フリーランス保護法	11.0%
9	コンプライアンス各論④ 独占禁止法・取適法・フリラン法	新規
10	ビジネスと人権対応研修（基礎編）	新規
11	コンプライアンス各論① コンプラとガバナンスと内部統制の関係とは	新規
12	営業店が留意すべきマナー・ローンダリング対策のポイント	▲ 43.5%
13	ビジネスと人権対応研修（実践編）	新規
14	幹部として実践すべきコンプライアンス	500 位圏外

特に目立つのは、実践編「自分を守るためのコンプライアンス」（▲47%）の落ち込みが、総論（総論①+10%、③±0%）より大きい点です。「知識として一通り理解する」ことが研修の主目的となり、実践への深掘りまでは e ラーニングに求めている可能性があります。加えて「幹部として実践すべきコンプライアンス」や「自治体職員のためのコンプライアンス」など、対象を絞った実践・専門テーマは軒並みランキング圏外へ後退しました。

3-4 マネジメント・育成

「マネジメント・育成」は全カテゴリ中、最大の下落幅を記録しました（ユーザー数▲45%）。ただし、その中に明確な例外が 1 テーマだけあります。既存テーマで唯一大きく伸びたのが「タイムマネジメント」で、前年の約 8 倍（+708%）に増加しました。単一講座の伸びとして突出しており、e-jinzai 上の講座群でも異例です。

マネジメント研修		伸び率(前年比)
1	タイムマネジメントワーク講座	707.6%
2	【2026 年 2 月リニューアル前】 階層別テーマ研修：OJT の基本	新規
3	チームリーダーのリーダーシップ	▲ 8.1%
4	メンバーとの良好な関係構築（一般社員向け）	新規
5	管理職のリーダーシップ	▲ 63.7%
6	キャリアデザイン（初級編）	新規
7	営業マンの人間関係構築力強化研修	新規
8	「心理的安全性」を実現するために（基礎編）心理的安全性が必要な背景	▲ 51.7%
9	自身のモチベーションを高める方法	▲ 63.0%
10	ジョブクラフティング講座（基礎編）	新規
11	タスク管理	新規
12	PDCA	新規
13	1on1 マネジメント研修（基礎編）	新規
14	仕事と人生が良くなる「習慣化の技術」	500 位圏外

マネジメント研修		伸び率(前年比)
15	ビジネスパーソンが知っておくべき情報の収集・整理・分析テクニック	500 位圏外
16	部下を知る	500 位圏外
17	社会人基礎力①「前に踏み出す力」	500 位圏外
18	チームリーダーのモチベーション管理	500 位圏外
19	OJT の基本	500 位圏外
20	管理者向け 業務改善	500 位圏外
21	組織のためのOJTとOJTの管理	500 位圏外
22	実務の問題を論理的に解決	500 位圏外
23	まわりと差がつく！PDCA仕事術	500 位圏外
24	イクボス育成研修	500 位圏外
25	コーチング	500 位圏外
26	人的資本経営とダイバーシティ、多様化	500 位圏外
27	クリティカル・シンキング入門	500 位圏外

この背景として考えられるのが、生成 AI 導入に伴う業務再設計との併走です。AI による作業時間の削減は、それ自体では成果に結びつきません。浮いた時間を何に再配分するかが決まって初めて、導入効果が実現します。多くの企業が AI 活用の初期段階を越え、「使えるようになった」から「使って何をするか」へと課題が移る局面で、時間の再設計という論点が浮上した可能性があります。

一方、「管理職のリーダーシップ」（▲64%）、「心理的安全性」（▲52%）、「モチベーション」（▲63%）といったテーマは軒並み大幅減となりました。

3-5 コミュニケーション・接遇

コミュニケーション・接遇では、「ビジネスマナー研修」が突出しています。カテゴリ全体がユーザー数▲33%と縮小するなかで、ビジネスマナー研修だけが+45%と伸び、カテゴリの49%（ほぼ半分）を占めるという極端な集中が起きています。新入社員研修の入口として、ビジネスマナーは景気や流行に左右されない定番です。

コミュニケーション研修		伸び率(前年比)
1	ビジネスマナー研修	44.9%
2	アサーティブコミュニケーション（初級編）	▲ 8.8%
3	考えを論理的に伝達	▲ 29.8%
4	頭を使ったホウ・レン・ソウ（報告・連絡・相談）	▲ 13.7%
5	お客様の気持ちを理解する	新規
6	相手に伝わる説明の仕方	新規
7	ライティング研修：適切な文章を作成する能力	▲ 4.8%
8	自治体職員のための接遇	新規
9	ライティング研修：ビジネスに求められる文書	▲ 10.1%
10	接遇・ホスピタリティ（初級編）	500 位圏外
11	質問力・伝達力の強化	500 位圏外
12	クレーム対応の基本	500 位圏外
13	アサーティブコミュニケーション（中級編）	500 位圏外
14	デリバリー能力の強化	500 位圏外

一方、ロジカルシンキング（「考えを論理的に伝達」▲30%**）やライティング（▲5～10%）といった応用スキルは減少し、接遇・ホスピタリティ、クレーム対応、ファシリテーション、アサーティブ（中～上級）などはランキング圏外へ姿を消しました。コミュニケーション研修は「新人に基本を教える」役割へ収斂しつつあるといえそうです。

終わりに

今回のアクセスランキングを通じて、多くのユーザーの皆さまがどのような学習テーマに関心を寄せているのかが、より明確になりました。特に上位にランクインしたコンテンツからは、現場での実務に直結する知識や、すぐに使えるスキルに対するニーズが高まっていることがうかがえます。

私たちは今後も、学びの現場に本当に求められるテーマを丁寧に汲み取り、実用性と質の高いコンテンツづくりを進めてまいります。すべてのユーザーにとって“選ばれる学びの場”であり続けるために、進化を止めず挑戦し続けますので、今後の展開にもぜひご期待ください。